

芸術家は、前例のない物、誰も作ったことのない物を創作し、作品を作る。

「製品作り」は量を作り、安価。「作品作り」は数が少なく、高価。制作者として、どちらに向いているかは当人次第。作られた物が、どちらを選ぶかは、お客さん次第。

どちらも共通していることは、「思い入れ」が強いこと。職人が作る高度な製品も、作家が作る高い評価がある芸術作品も、時代を経ても大切に残される。

職人の中の芸術性や、芸術家の中の職人性は、相容れない（互いに許容しない）が、共に一流になった物のみが世に残る。

私の師は

私の師は、最初は兄、おきざん 熙山。次が仏です。どんな時でも仏様は待っていてくださいます。ですから、自分が作った仏像ではなく二千五百年の間、続いている祈りの中から出てくる慈悲のお姿です。

五百年後、千年後も自然と手を合わせていただけるように、自分が死ねばもう二度と作ることができない仕事を心にかけています。ですからいつも、今作っている石仏・石像が最後だ、というようなつもりで全力を注いでいます。

永遠の命

石は固いが、次第に柔らかく、温かみのあるものへと姿を変えて行く。そんな時、仏像は姿を現わす。

何千年何万年の間、眠りから目覚めて行くように、私の手から離れ、人々の心の中へと溶け込んで行く。

自分の手の中から延命を授かった石仏・石像が人のために受け継がれて行く。ここに、私の喜びと、仏師として、また石彫家としての宿命を感じる。

自分の身は、歴史の中では小さな存在だが、石仏として姿を変えたものは、「永遠の命」を得て、受け継がれて行くものと信ずる。



夫婦フクロウ
大津市・総本山三井寺事務所に安置。平成26年4月25日
(20.3×28.7×18.2cm)



来迎勢至菩薩立像(上半身)
北九州市・吉祥寺（浄土宗第二祖・鎮西国
師生誕霊場）に建立。(139×65×45.5cm)